

ふみびと

第280号
発行所
文通村事務局
編集 広報部
千葉県成田市

そこに感情も 思い出す

『手紙を出す』体験

初めては確か小学校二年生の頃。

学校の授業で宛先や宛名などの書き方を教わり、母への感謝の気持ちを拙い文章でしたためる。その後クラス全員で近くのポストに行って、各自自分で書いたものを少しドキドキしながら投函。「手紙を出す」ということのドキドキやワクワク感を知った、その初めての瞬間は今でもなぜかはっきりと覚えています。

どんなことを書いたか

までは細かく覚えていないのですが、子どもながらに照れ臭さを覚えながら、それでも初めてちゃんと書いて投函する手紙に、感じたことのないワクワク感。それはもしかしたら今も少なからず同じように感じているところがあるから「覚えていない」のではなく「思い出している」のかもしれない。

そして「思い出している」から今でも同じようにワクワクできるのかも

子ども頃の夏休みを思い出す

することがなくて、汗ばむ暑さの中、寝転がって、蝉の声にただじっと耳を澄ませていた時間。

その時は退屈さになんざりしていたけれど、振り返るとなんて贅沢な時間だったのだろうと思う。今はあんな風に時間を味わうことなんてない。ちょっと真似し

寝転ぶままに

ほんの束の間、過ぎていく夏の時間を感じることができた。

「今だけは」と頬に触れる畳の感触とあたりの物音に集中する。そのままじっとしていると、不思議

のかもしれない。少しだけ、退屈なふりをしてみる。忙しい日々の時間の流れをわずかにゆるませる一つの方法なのかもしれない。



しれません。初めて手紙を出した、あの瞬間のことを。

それから初めて母に手紙を送った次の日、家に届く手紙を母が見てどんな反応をするかが楽しみでソワソワしながら待っていたことを。

手紙を書く時に、相手のことを思い、字をしたため、手紙を出す時に相手がどんな思いで読んでくれるだろうと思いを巡らせる。

子どもの頃に初めて送った手紙に、手紙の楽しさが詰まっていたように思います。

小学校の時に初めて教わったのは手紙の出しかだけではなく、手紙の楽しみ方だったのかもしれない。照れ臭くて言えないことも、自分の手を離れて伝えてくれる。そんな手紙の優しさに甘えていたための思いは、きつとあの頃と変わらないうような気がします。「ありがとう」



次回発送日

8月の次回発送日は通常通り31日の予定です。送りたいお手紙がある場合には、2日前の29日までに事務局に到着することを確認の上、余裕をもってポストに投函してください。

マイページ

村人検索内での「紹介文変更日付」を追加。さらに更新のお手続きもマイページから簡単に行えます。また、自分で自由に自己紹介文を変更することも可能です。他にも皆様からのご意見を参考に新しい機能も随時追加して参ります。

風にゆられて誰かに届け!

風船便

風船便はいつでも誰でも参加できますが、その受取は新規の方へ優先されます。誰に届くかは風次第...。送り方は簡単。下の風船便切手名を切り取って手紙に貼り宛名に「風船便を受け取った方へ」と書いて、差出人名を書くだけです。あ事務返信筒の下の封下まで流し込みます。

